慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	労働掠奪説と労働価値説
Sub Title	
Author	中山, 英一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1918
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.12, No.3 (1918. 3) ,p.394(869)- 401(93)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19180300-0086

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

勞働掠奪說こ勞働價值說

英

得ざりき。 始者と認めらる。 底として、 い學は價値 みたる、 値説は 商品の價 問題を解決したり。 此場合に 然るにリ 古くより偉大なる思想家の解決せんと 即ち勞働價値説に於て經濟學は一應 値に影響する所 の要素を究めん 經濟學上の重要問題な は必 力 於ても折衷主義の立場を捨てざ ド し彼は他の問題に於けると 8 7 ダムスミスは此説 の價値決定要素たる事 確實に勞働價値 学説と し事疑ふ可か 大なるを認 とするに當 0 b を有 めざるを こらずっ 説を根 して經 の創

一應此事を承認したるなり。を主張したるに非ずと雖も、研究の順序として

意味す。 現社 得は、 観を呈するに至れり 斯く勞働掠奪説は、 働者に依りて創造せられし價値の奪取なる事を 0 若しも價値が全然勞働に依つて生産せらる ならば、 會制度の讃美者に依て武器を與へらるるの 理的結構として現はれ、從て社會主義者は、 勞働者に對して犯されし盗に外ならず。 換言せば地代利潤その他 土地資本等の所有者 學問上承認せられし價值說 の所得 般無勤勞所 は

を以て有名なり。タムソンは『富は勞働に依て名目の下に唱導せられたる、所得學説を收むるは後年マルクスの著作を通じて『除剩價値』のをなす者現はれたり。就中キリアム・タムソンの主義的精神を以て彼の價値説を利用するの試み主義的精神を以て彼の價値說を利用するの試み

勞働生産物の大部 働の一部あるのみ。: 然るに通常資本家が に對して、勞働者が是共し导可きまっかと、は即ち土地家屋衣類道具食物等の購求または賃借 故に る可 對して、 欲求對象 物の効用は何 生産さる に存せずし Ç 現制度の下にありては、 の貨與に へらるる からず。 なる生産手段の所有者は、 何物かを生産せんと欲せば、之を賃借せざ 如何なる代償を支拂ふか。 より して其時に於て始めてそは一切の他 勞働者が提供し得可き唯一物件は勞 せざる者に依り消費せらる。 對して要求する所は甚だ大にして、 然 7 區別 至るまでは決 して彼は是等生産要具の使用に 生産に参與せざる人の手に存す せられて質となるものなり。 の形態に於ける勞働が 0 生産要具は勞働者の して富を構 生産要件、 求 奪はれ 成する事 0 生產資 なる T 0

機械材料等の形に於ける資本なければ、勞動す、實に十倍百倍若くは千倍の富を享受す。る勞働者と等しき程度の享樂を受くるのみなり

を得る し、これ なす可しと言ふなり 機械その他の使用に依り同一勞働が生産する事 むに足る報酬を以てしたるものを以て足れりと は整理者に 復する程度の報償に加ふるに、準とこれなり。勞働者の標準は 渡さる するに二標準あり。 働の生産物の幾許が生産要具の使用に 其使 は比較的不生産的なる事明白なれば、 可さかにあ に反して資本家の標準に るものの知能と熟練とに對する報酬と 生產 して支排ふ の全體を以て 的勞働者と同じ程度の生活を營 b これ は正當なり。 ける資本なければ、 が使用の價値を測定 資本を蓄積 資本の所有者又 依れば、 只問題は勞 一對して引 勞働者 資本

は剩價値は史初以來資本家勞働者間の鬪爭の

丁二卷 (三九五) 雑 錄 勞動京解說と勞動

第三號

部分と概る事は、 となれり。 を以て勞働者に なる C 干係を 分を占有する事 は大陸に於ける社會主義者文獻の流行 結 斯て勞働掠奪說は勞働價值說と緊密 ぶに 依りて創造せられ 至れるなり。 タムソン以來先づ英吉利に續 の結果は 17 9 常に資本家が たる價値の して利潤 價 地值 思 想 一代 0

のに外ならずと云へり。マルクスはタムソン なる勞働は、 於て断案を下し、 極まで押詰めたり 生ずる所に非ざる事を断言せり。 は生き のに止らずして、 71 能はざればなり。 く、資本家の利潤をなす新價値は、生産 1 w 結晶化され マルル 啻に價值決定要素 クスは餘剰價値説を論理 一物生産の爲め社會的に必要り。その大著『資本論』の初めにクスは餘剰價値説を論理上の究 0 を移轉するも、 し勞働は、價値の本 具象化され 此意味に於て價値の唯 し社會的勞働時 の最も重要なる 何となれば資 値を創 體その 造す 0

> 分たる。 する、 3 9 力を購ふ能はず。 受くる質銀再生産の爲めに必要なるより 泉は勞働なり。 して餘剰價値生産の為には勞働者をして、 斯の 即ち必要勞働時間、 の勞働をなさしむるを必要とするは 即ち無報酬勞働 第一は彼の生活手段の價値を再生產す如くして劈售者の共作―― 然れども資本家は無償にて勞働 之に對して市 これ な 價を支排 b 0 の論な ş 3 其の 長

るにも 社會學的組織の き餘剩價値論は、科學的の立場 歴史に比類なき役目を演じ、 勞作なり。 | 會學的組織の精髓をなすものにして徐剩價値源泉の理論は、『資本論』の さは言 條となれる 拘らず十九世紀後年の經濟學史を飾る ^ 而して此の教理が 彼に依りて構成せられたるが 決して怪しむに足らざるな また勞働運動の信 社會主義運動 また實際 て、缺點の經濟學 Ŀ す 如 3 0 0 あ的

論は、 クス、 的に 矛盾に陷没せり。 價値の本體に非 と認むる事に依り、 と b 古典派の學説に非る事を記憶する τ ダム 7 ソ ンに依りて唱導 1 ればなり。 兎に角吾人 ス 救ふ可からざる事質と 3 なり。 に阻辯する 彼に勞働を價值 せられたる價値 は先第一に、 の必要 る根 0 7

が當を得たりや否やは問題なるも、彼は常に其濟人』の假定より出發すると同樣なり。此方法定より出發せり。これ恰も緘釋的經濟學が『經定より出發せられたる勞働の割合に依るとの假法則を研究するに當り、リカルドは商品の價值 定より して商品の價値を以て具象化されし勞働 Œ せず。 も、そは價値の一要素としてのみ。 6 對的勞働價值 で全く大成 勿論リ 力 したる古典派の價値論 ルドは 重きを生産 一的勞働 分配の はカル なり IV 3

論理的發展として多數の人に認められ、 素となさば、 相關連するも、 言ふ所のものにして、 外には之なしとせり。 價値は凝結したる社會的勞働、 商品の平均代價 りと認 のなり。 ルク と比 ルドと同 の他 スに 者なきに 例せざる事 し爲め、 然も此區別に對する深ら注意は何 8 リ ありて たる して認 其結果絕對勞働價值說の論 カルドの如 観察點より出發せるもの 勞働を價値の本體となす能はざる 、實は相容る可からざる別個のもにして、表面上はリカルドの説ととせり。此説は余が絕對勞働說と は、 は、 7 をさ 干係せるこ IV 勞働は價値の本體にして、 決して投せられし勞働價值 クスの説はリカル ~ 『資本論』の著者自身 認め く勞働を價値決定の一要 12 と及 るなり 即ち結晶勞働以 0 價值 0 なる事を 1, に勞働 敢で怪 時しか るに んで もリ 7 12

値説が、 相容れざる絶對勞働價 産物と認めらるるに至 る除剰價值説 古典學派の價值論に根底を有すと言ふ は、 古典學派の價 値説は實際の事質と全然 かり。 より れども 値論の必然的 ģ 剩價

めには幸に 説は を以て K のなれ の飲く 誤謬たると同時に社會主義者に は勞働掠奪説は成立せざるものとすれば社 " 價 はなり。 て能 の社會に於て、 して事質は然らず。蓋し、 絶望するの外なし。 可からざるも の本體なりとなす説が の價 く勞 吾人は除剩價値説の抉を籍 3 のに 勞働の掠奪が行はる て、 會主義者 果して社会 取り 之を 除剰價値 不必要 否定す は 1) 會

観る事を 主義の取 場合さ は其の して、 働價 て其 對して抑ふ權力となし得 が物に對して有する權力を移して、 せずして分配論中に願す。而 斯の如くタムソン、 栽培地の地主が收得する地 非れざも、事實上費用の絕對的本體としての中に含まる。蓋し勞働は價値の絕對的本の取て以て利用す可き重要なる思想の萠芽は、一の誤謬に過ぎざるも、然かも尙社會「値說の必然的結果として論せられし除剩價 值 0) 勞働 異る所なさなり。 地 少なる事 得るを以てなり。 價値及費用なる二つの 掠奪の結果なる事に至ては敢て他の地主が收得する地代は無勤勞所得に る勞働 事に基つく マル す。而して其の原因は人。勞働掠奪は生產論に屬 る可能に存するなり。 クスに依りて絶對勞 他の人間に Ö 猶は衛 祠を生 0)

要なる支 ۲,

らず。 に過ぎず。 働以外にあるなきなり。 り見れば、 ずるを得るなり。技術的並に物質的觀察點よず。換言せば、生産は勞働のみの所産なりと行程に於ける唯一の能動的要因と觀るに外なの本體と認むる事は、即ち人は勞働を以て生 ふを得ず。 して觀る經濟學者の見地に 勿論生産に於て種 視する能はず。 即ち人格の費消なるを以て、 に區別なしと雖も、 2 即ち人間と動物または機械 人間は他のものの如~機械力の表現 實際上絕對的費用の本體は人 經濟現象を入 して勞働を絕 てば、 の勞働と 對的費 0 問題 の勞

して吾人は、 富は人 みに依り

> 切の富を分析するの妥當を認むるなり。ず。科學は人間勞働と密接なる干係に於て、 産の勞働に負ふのみ。然れごも勞働と價値とのて複雑なる社會現象にして、只其の一部分を生 され 値を決定すど断定せざる可し。 察するを得。 むな 對 0) 必要なる勞 的生産要因たる特別なる獨立の意義を失は 75 9 定すさ斷定せざる可し。素と價値は極める誤謬を反覆して、勞働のみが商品の價を得。吾人は『資本論』の著者に依りて為 關係が如何なるにもせよ、 此見地より否人は、 會勞働に從事する人の勞働 たる勞働のみ 即ち結晶 只其の一部分を生 ならず、 時間として観 の富を祉 勞働は其 をも含 會 さ言 0

7 右に述たるが 論理上同一に非ず。而して勞働との説と混同す可からず。これ たる勞働のみ獨り き勞働費用説は、 質値を創造する力の説は、之をマルク て勞働費 費用説より 之をマ

勞動掠奪説と勞動價值

定量の勞働を投する事に依て一定量の富が得 を造るに 經濟進步の唯一確實なる尺度は、 間に於ける生産 の分量、 程度を表示するも 面より ぞや。 度合にて現はさる。 、其制度の 購入せられたるかを測定する 定の經濟制度の價値を評定するに なき 一後す を造る為め みならず、 れば、 れずして價格に依つて左右せらる **勞働の生産力とは要するに勢働費用** 一定量の勞働を要すとせ 観たる観念に外ならず。 換言すれば如何なる代價を以て此富 F の勞働費用 余剩價值 せらる 同時に其富に具體され に創造せられたる社會的富の分量度の價値を評定するに方つては獨 の結果たる宮の量は勞働 然らば勞働の生産力とは、勞働の生産力 配は、 論は實際生活と大なる矛 にして、 勿論今日 事最も重要なり 即ち 其の反對に ば たる勞働 一社會各 是れ其の 定定 0 然し 担

概念は、 投せら なる る * 勞働とは、 > 之を研 社會の 始めて與へらるゝ事を得るなり なる解答は、 か減退しつゝあるか、 æ 會的勞働に を二部分 なる國に於て掠奪の行 實を斷言したりと雖も、 物資の生産に要する努力の量にして、 ン學徒は資本主義社 價值說 とな る 究す 進步に連れて掠 掠奪學説を始めて完全ならしむ。 所の勞働なり。必要勞働余剩勞働の 社會の非勞働階級を維持する為めに L 8 参加 分ちて、 る事能はざりき。 たるは當 亦然り 必要勞働、 學の せる一切の勞働者に取り必要 を得たり。 必要勞働時間及び余剰勞 必要なる総疇なりとせば 若しくは如何なる産業 奪の程度は進みつゝあ 會に はる 余剰勞働の概念を得 掠奪の程度如何及い於て奪掠が行はる **〜程度甚しき** 必要勞働とは、 H 對する確 の勞働時 **余剩** サ か ·

働費用説に依る勞働掠奪説の修正中、今

と認めざる場合に於ても此概念の重要は變ずる 掠奪説と生産力の發達に基つく社 件に 現象に とを連結する架橋をなすものなり。 勞働の生産力、 形に於ける社會的掠奪の干係は、 るの事質を否定するも 費と其 るもにせよ、如何なる經濟學者 T 對的勞働價值說を否定し、 於て勞働費用の概念の眞意義は存す。 なさなり。 遡る可さ一の派生的 6 個の經濟原則に堕する事なきやと言ふ 視て經濟現象が重要の役目を演じつく o (生産 唯物史観に對する吾人の態度は如 或は絶對 若くは社會的勞働費用の して然らず。 て然らず。蓋し勞働費用の概則に堕する事なきやと言ふ者、後者は其の倫理的意義を失絶對的勞働費用の學說と掠奪 度とは根本的且の決定的 等の干係は、一定ののあらざる可し。 現象に過ぎず。 勞働 を有 社會學者も、 です。社會的定の生産條 概念 社會 何 0 は あ な

會茲主主に義 なり。(Tugan Baranowsky, I可避なる論理的普遍的歸結 8 奴を倫が所一隷理理人産視 りしならん。 5 る斯の 王義的理想は尋常普通の良に立證するものなり。而しる範疇の基礎をなせり。即あの如く人間平等の觀念は期の間に區別を設くる事を更しならん。彼等は恐らく自しならん。彼等は恐らく自 6 は 全解せざりし古代 大格の尊貴、人族 大格の尊貴、人族 大格の尊貴、人族 何故し に於 15 T 7 Baranowsky, は人 12 0 一勞働と 手段も 馬の勞働 亦之をな 獨り人 とな す。 0)